



障がい者スポーツ体験教室

東京ヴェルディのホームタウンの1つである東京都日野市から、市の事業として通年開催をする障がい者スポーツ教室を東京ヴェルディのコーチに指導してもらえないかと依頼があった。障がい者も健常者も誰でも参加できるというスタイルで、始まったこの活動。様々な目的がありますが、なかでも一番重要な目的が『障がいのある方が運動をする機会をつくる』。障がいのある方には運動をする機会自体がない場合が大変多い。この活動で1ヶ月に1回でも2回でも身体を動かす機会をつくることで、少しでも健康な生活を送っていただき、最終的には「運動不足解消」から「スポーツを楽しむ」というレベルまで環境を引き上げたい。

- 活動場所** : 渋谷スポーツセンター/ひがし健康プラザ、北区赤羽体育館など、ホームタウンの公共スポーツ施設
- 取組テーマ** : ダイバーシティ（共生社会）
- 協働者** : 企業／行政
- 協働者名** : 渋谷区、北区、日野市、立川市、多摩市、いなぎグリーンウェルネス財団

活動で工夫した点

『障がいのある方に対する理解を促進する』私達の活動では体育館の半分のスペースを使用し、なるべく隣で別の団体がスポーツをしている環境で教室を実施します。はじめは隣で活動する団体が戸惑ったり、施設に問合せをしてきましたが、次第に「障がいのある人は当たり前存在なのだ」と当たり前の事実気づき、こちらの教室にも参加する人がいたり好例も生まれました。

活動で大変だった（苦労した）ポイント

一番苦労したのは、いかにして多くの方にご参加いただくかということでした。はじめは参加者が数人だけということもありましたが、各ホームタウンの福祉作業所と連携し、あらかじめ参加しやすい曜日や時間を確認してから行政と調整してスケジュールを決定することで、安定的に20～30名以上の方々にご参加いただけるようになった。

クラブや地域の活動後の変化

活動範囲が広がることにより、クラブ内でも障がい者スポーツ指導員の資格を取得するコーチが増え、社内外で障がい者スポーツの普及や発展に対して話をする機会が増えた。またこの障がい者スポーツ体験教室をハブにして、協賛や新たなイベント実施、様々な団体とのコラボレーションなど、クラブ自体の活動の幅が広がった。行政や参加者からも「次回を楽しみにしている」という声をたくさんいただけるようになった。



協働者の声

渋谷区スポーツ振興課空閑課長の声：ヴェルレンジャーの取り組みを知って、日野市の教室を見に行ったのがはじまりです。参加者が笑顔で取り組んでいたのが、すごく印象的。たまたま隣でスポーツをやっていた一般の方も「おもしろそうだから参加してみたいな」って交流が生まれたり。まさにこれが、渋谷区がめざす多様性だと思いました。

<https://actions.yahoo.co.jp/article/doman3/>

参加者の声

障がい者スポーツ体験教室参加者の感想：みんなと協力しあいながら楽しくスポーツをできてよかった。/ダンスが踊れて楽しかった。/手が不自由な人も（ポッチャの）ランプを使用して楽しむことができた。/試合に勝って嬉しかった。/たくさんの方が来てよかった。/フライングディスクを投げられて楽しかった。等

活動の「ここぞ！」というPRポイント

障がい者も健常者も誰でも参加できるスタイル。種目はサッカーだけにこだわらず、チアダンス、ポッチャ、卓球バレー、シッティングバレー、玉入れ、ウォーキングサッカーなど多種多様なラインナップ。

補足

私達が重要視しているのはまずは参加者の方がスポーツを楽しむこと。各種目のルールを厳格に守るのではなく、そのスポーツの楽しみやすい部分を取り出して、みんなでチャレンジすることです。また2021年以降もこの障がい者スポーツ体験教室を継続、発展させていくことを何よりも大切に考えています。東京という街にある「クラブ」として、リーグ、協会、メディア、各種団体と協力して、この活動の意義を発信していきたいです。